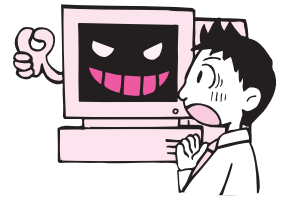


情報化社会に 潜んでいる危険



生活の中のインターネット

情報化の進んだ現代社会では、私たちの日常生活でインターネットが当たり前のように使われています。

確かにインターネットはとても便利なものであり、身近な疑問や、話題になっていることなど、瞬時に多くの情報を手に入れることができます。

提供される情報の真偽を見極め、不必要な情報やいかがわしい情報を自ら排除することができれば、これほど便利なものはないでしょう。

子どもにせまる危険

インターネットへ興味本位にアクセスしたことで、子どもたちが犯罪の被害者になったというニュースを耳にしたこともあるでしょう。

また、自分のブログを立ち上

げ、ネット上にお気に入りの写真をアップしたことで、撮影場所のデータから自宅を突き止められ、ストーリー被害にあったという事例もあります。

さらに、インターネットの匿名性を利用し、特定の人物について誹謗中傷を行うことから生じる「いじめ」も起こっています。

このように、インターネットの世界では、正しく使わなければ被害者にも加害者にもなる可能性があるのです。

親として知っておくこと

多くの親は、緊急時に子どもと連絡をとるために、携帯電話などを持たせているようです。子どもの安全を守るために持たせたものが、目の届かない所で子どもを危険な目に遭わせたり、友だちを傷つける道具として使われたりすることもがあると知っておく必要があります。

今や高校生の9割以上、中学生の5割、小学生の3割が自分専用の携帯電話もしくはスマートフォンを持っているといわれています。児童・生徒が自分の意思でインターネットへ接続できる環境は子ども達の周りにあふれているのです。

大人ができること

私たち大人は、有害情報やインターネットを利用した「いじめ」などから子ども達を守るために何ができるでしょうか？

まず、携帯電話やインターネットの利用時間を制限するなど、「家庭内のルール」を作ることです。メールやインターネットに振り回され、一日中携帯なしでは生きられないような生活にならないようにしましょう。

そして、子どもがアダルトサイトなどにアクセスし、有害情報にふれることがないように、フィル

タリングサービスなどを利用し、親の責任の範囲内で携帯電話などを使用させるように子どもと約束しましょう。

情報化のスピードは大人が考えているよりずっと早く、子どもたちは次々と新しいコミュニケーションの方法を獲得しています。大人が想像もつかない人間関係を作り上げてしまうこともあるとの認識を持ち、子どもに買い与えたものを、子どもだけに任せるのではなく、いつも見守り、時には危険を回避するように指導することが必要です。

男女が共に輝くあした創り！！



2月15日、たけはら男女共同参画社会づくり講座の第3回目として「さっちゃん・ともちゃん」によるジェンダー漫才とワークショップを開催しました。

「女性は子どもが小さい時期は働かない方がよい?」、「経済的責任は男性がもつ?」など日常の疑問について意見を出し合いあい、楽しく和やかな雰囲気の中でお互いを認めあいました。

参加者からは、「男女共同参画とは、自分も相手も大切に自分らしく生きることだと気づくことができた」などの感想が寄せられました。